

国際交流

1997年 9月30日創刊

2023年 3月31日発行(第45号)

二松学舎大学国際交流センター

〒102-8336東京都千代田区三番町6-16

Tel : 03-3261-5751

◆目次◆

①海外留学の再開のお知らせ……………	1	文学部1年 山野 実咲(韓国 高麗大学校) ……	12
②二松学舎大学と海外の大学との協定締結について……………	1	⑤国際交流の会実施報告……………	13
③2022年度 派遣留学修了報告		⑥2022年度 日本語・日本学特別プログラム修了の報告 ……	13
国際政治経済学部3年 福元 稜(オーストラリア サザンクロス大学) …	2	聊城大学 張 梓軒 ……	14
国際政治経済学部3年 森貞 滯里(オーストラリア サザンクロス大学) …	3	聊城大学 趙 連学 ……	14
国際政治経済学部3年 渡邊眞緒子(オーストラリア サザンクロス大学) …	4	⑦2022年度 交換留学生報告	
文学部3年 北川 絵万(韓国 成均館大学校) ……	6	成均館大学校 蔡 熙周……………	15
文学部3年 宮澤 瑞歩(韓国 成均館大学校) ……	7	⑧2022年度 外国人留学生(文学研究科博士後期課程)報告	
④2023年 春期短期海外語学研修(英語・韓国語)報告		陳 越……………	15
国際政治経済学部2年 葉袋 綾祐(オーストラリア サザンクロス大学) …	9	⑨コロナウイルス感染症にともなう	
国際政治経済学部2年 美川 琴音(オーストラリア サザンクロス大学) …	9	入国制限および海外派遣留学の状況……………	16
文学部1年 古沢 心音(韓国 高麗大学校) ……	10	⑩国際交流センターからのお知らせ……………	16
文学部1年 石井こはる(韓国 高麗大学校) ……	11		

海外留学の再開のお知らせ

本学はグローバル化の推進を目指して、派遣留学および短期海外語学研修への参加を、学生の皆さんに奨励してきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大にともない、2020年度から学生の海外留学を中止せざるを得なくなりました。これは、外務省海外安全情報が定める「危険情報」レベル2以上の国・地域への学生派遣を原則的に禁止する学内の危機管理基準に沿っての措置となりました。今般、派遣国の感染状況の改善、入国制限措置の緩和等を踏まえ、2022年度から留学を再開することができました。また、海外からの交換留学生の受け入れも開始することができました。今後も派遣先における感染状況の改善にともない、海外留学を再開する国は増えていく見込みにあります。

2022年度に本学学生を派遣した海外の大学：

サザンクロス大学(オーストラリア)、中国文化大学(台湾)、
銘伝大学(台湾)、高麗大学校(韓国)。

2022年度に外国人留学生を受け入れた海外の協定大学：

聊城大学(中国)、中国文化大学(台湾)、成均館大学校(韓国)。



二松学舎大学と海外の大学との協定締結について

2022年度に中国にある大学と協定を締結しました。

浙大城市学院(中国)



浙大城市学院(中国)

中国浙江省の省都で歴史的文化都市である杭州市に位置し、浙江大学と杭州市政府の提携により1999年に設立されました。日本語学科を含む外国語学部、人文学部など10学部38学科を有する総合大学です。

2022年度 派遣留学修了報告



オーストラリア サザンクロス大学

国際政治経済学部 国際政治経済学科3年
福元 稜

1. 留学を終えた感想

オーストラリアでの1年間の経験は、個人的に人生で最も有意義で充実した1年間であったと思います。英語力の向上はもちろん、人脈、価値観、性格など様々な部分で大きな変化がありました。英語力に関して、ネイティブや英語を第二言語とする多くの人たちと多くの時間を過ごし、常に英語で物事を考える状態が確立されました。そのおかげで、英語を話すことに対する躊躇が全くなくなり大きな自信をつけることが出来ました。また関わる人たちの経験や生き立ちなど様々な話題によって、価値観や考え方を共有し、楽しんで学習をしていたと思います。

留学する以前は費用などの問題で少し躊躇していましたが、後悔などは一切なく自信をもって留学してよかったと思っています。また、21歳という年齢でこれほど大きな機会を得ることが出来、自分自身の恵まれた環境を再度実感した1年でもありました。両親に対してはもちろん、このような機会をくださり支援して下さった国際交流センターの皆様をはじめ二松学舎大学に大変感謝しております。ありがとうございました。

2. 留学を決めた理由

高校2年生の時にアメリカに語学研修に行ったことをきっかけに、英語と海外の文化に興味を持ち始めました。またその研修は1ヵ月であったにもかかわらず、自分自身に大きな変化をもたらしました。そのため、海外の環境に身を置き、文化や言語、様々な人々と関わる事が自分にとって成長できる最高の選択肢であることを認識していました。そこで、二松学舎大学で行われている留学プログラムを知り、留学を決意しました。

3. 留学先の学び・学習内容 (どのようなプログラム、授業の内容、宿題、クラスメート、先生についてなど)

留学最初の3ヵ月ほどは英語を学ぶと同時に、大学に入る準備をする期間でした。そこでは、私たちと同様に世界の様々な国から、様々な年代の留学生が参加していました。クラスも決まっていたので、友達も作りやすく楽しかったです。その後、大学の学部生と専門的な科目

を自分で履修しました。どの講義も内容が濃く、さらに専門的な単語など、英語のレベルも格段に上がったのでやりがいのある期間であったと思います。先生は皆さん優しく、質問などにはとても協力的な印象でした。課題について、引用の仕方やレポートの書き方がとても細かく指示されており、正直かなり苦労しました。しかし英語力も上がりましたし、貴重な経験でした。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

初期段階のEAPコースで出会った先生方は、本当に良い人たちばかりで、個別で将来についての相談ができるほど親しみやすく優しい先生でした。また、私はバイト先でも魅力的な人々に恵まれました。オーストラリアはもちろん、ニュージーランド、コロンビア、フィリピン、南アフリカ、イギリスなど様々な国の人々が働いており、数少ない日本人としてその環境に身を置くことが出来ました。さらに、仕事をきっかけに互いに生き立ちや母国の文化の話などを共有し、新たな友人と新たな価値観を得ることが出来ました。

5. 留学のおすすめポイント

自分に何かしらの変化が訪れることが大きなポイントだと思います。また、生活するうえで新たな価値観を得たり、英語を話したりなど数えきれないほどのチャンスであふれています。もちろん言語の壁はとても大きく、自信を無くしてしまうこともあると思います。実際に私も自信のあった英語が全く通用しなかった経験から、最初の数ヵ月は自信を無くしていました。しかし、留学をすることでその気づきを得られ、また新たな段階に踏み込めるチャンスを作ることが出来ると思います。



卒業式前のクラスメイトと恩師

6. 現地での生活について（宿泊先や研修先の雰囲気、一日のスケジュール、週末の過ごし方など）

ホームステイ先のファミリーは、とても優しくフレンドリーな方たちでした。留学生用の部屋が自分の部屋ともう一部屋あったので、この1年で2人の留学生と生活をしました。ほぼ毎日夕飯を一緒に食べて、その日の出来事や過去の経験談など様々な会話をしていました。基本的に大学のない日は、朝に散歩をしてから課題や勉強に取り組み、その後カフェやショッピングに行くなどして時間を過ごしていました。ビーチがとても近い場所に住んでいたため、よく1人で散歩などして、時には散歩をしている現地の人々と会話をすることもありました。

7. 留学で成長した点

まず第一に、英語力がかなり向上したことを実感しています。留学当初はリスニングやスピーキングにとっても苦戦し、自信を無くし、話すことを少しためらっていました。しかし、いろいろな人に積極的に話しかけ、常に英語で物事を考えるよう意識していたので、向上させることが出来ました。その過程を通して、困難を克服するための考え方や粘り強さなども磨かれたと思います。何より留学を通して、すべてにおいて自分に大きな自信を得ることが出来たと思います。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

後悔したことは、会話するうえで必要な最低限のスピーキングとリスニングスキルが十分に身につけていなかったということです。留学前は、自分の英語力を過信していました。日常会話で困らないレベルの英語力があれば、英語の伸び方はさらに大きく変化していたと思います。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

新たな環境で生活し勉強する心構えは十分だが、英語力が不十分なのでスピーキングとリスニングの両方をさらにトレーニングすべきだと伝えたいです。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

自分の心構えや考え次第で、留学という経験自体が良くも悪くも変化するという事は認識しておくべきだと思います。ネイティブと会話し自信を失うなど、様々な問題が必ず起きます。また、それらによってモチベーションを失うことは多々あると思います。しかしそういった問題は全てチャンスだと思うので、克服できた時のことを想像して諦めずに頑張ってください。



オーストラリア サザンクロス大学

国際政治経済学部 国際政治経済学科3年
森貞 滯里

1. 留学を終えた感想

私が滞在していたゴールドコーストはオーストラリアの中でも自然が豊かで、ビーチと山に囲まれている美しい都市でした。その土地柄や気候もあってか、ゆったりと時間が流れていく中で、自分をもう一度見つめ直し、成長する良い機会にありふれた一年であったなと思います。大学の授業は、さらに難しくなり、苦戦することが多々ありました。授業ももちろんのこと、課題を書くために多くの文献を読み、大変でしたが、毎日の積み重ねが結果として自分の英語力を大いに伸ばすことができたと思います。この1年間の留学は私の精神力をさらに強めることができた一年で、とても充実した留学生活でした。

2. 留学を決めた理由

私は今まで何かに全力で最後まで取り組んだことがなく、自分との戦いでいつも甘えが出て逃げてきた人生だと思っていました。そのため、英語がもともと好きで、海外に出たいという気持ちがあったので、この機会を利用して、最後までやり遂げて、自分に自信をつけて、成長したいと思ったからです。

3. 留学先の学び・学習内容（どのようなプログラム、授業の内容、宿題、クラスメート、先生についてなど）

初めの10週間はEAPというコースに所属していました。ここでは大学に正式に入るにあたって、エッセイの書き方、プレゼンの仕方などを学びました。EAPは周りが全員オーストラリア以外からの留学生で、英語学習者でした。その後は、大学の正規の授業を受けます。基本的に1時間のWorkshopと2時間のTutorialがセットで一つの授業です。Workshopは教授の一般的な講義で、Tutorialは教授と生徒が一緒になって話し合いながら、学びを深めていくというものです。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

ゴールドコーストの代名詞といえばビーチなので、家のすぐ近くに美しいビーチがあり、健康に気を遣っている人がほとんどなので、健康的な生活を毎日することができました。また、いろいろなバックグラウンドを持った人たちと出会うことができ、日本の中でいかに狭い価値観で生きてきたのかを痛感するほど、話を聞くだけで

も面白い人たちがたくさんいました。

5. 留学のおすすめポイント

とにかく自分自身と向き合い、精神面で大きく成長できると思います。また多くの国から来ている人たちが多く、英語圏だけでなく、他の国にも興味を持つ機会も多くあるため、毎日が楽しいです。家でスマホをいじる時間があれば、外に出たいと思うほど時間を大切に使う精神も養われると思います。

6. 現地での生活について（宿泊先や研修先の雰囲気、一日のスケジュール、週末の過ごし方など）

ホームステイ先は本当に家族の一員として接してもらい、感謝でしかないです。ホストシスターとブラザーとは本当の兄弟のように喧嘩をしたり、仲良く遊んだりもして、ホストマザーやファザーはハイキングに連れて行ってくれたりと快適にオーストラリアで過ごせるように配慮もしてもらいました。どんなに親切にしてもらっていても、やはり他国の家族となると合わないことも多くありましたが、話し合えば関係も悪くならず改善することができました。

7. 留学で成長した点

良い意味で、他人の意見を気にせずに、自分の意思を大切にすること。最後まで努力をし続けること。人との出会いや関わりを大事にして、自分の知らなかった世界に積極的に挑戦して、知識を深めること。自分の知らない世界のどこかでは、環境問題や難民問題で困っている人が多くいることを頭に入れて、生活すること。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

英語の勉強はいくらしてもしたりくらないので多くの



日本食と一緒に作った日にホストシスターとホストブラザーと

知識をつけておけばよかった。とにかく、日本でも英語に触れる機会を増やすことはできるから、をしておけばよかった。英語の単語の知識量を増やしておく。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

留学をしてから、自分の羞恥心を捨てることができたり、多くのことに挑戦しようと思えたりしたのは、半年経ってからだったので、日本にいるときから少しでも練習をしておけばよかったと思った。オーストラリアだけでなく他の国についてもあいさつくらいの言語の知識や文化の知識は知っておくべきだと思った。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

留学を決意すること自体が素晴らしいことだと思います。他国で生活することは大変な毎日だけど、挑戦することだけでも成長することができると思います。とにかくわからないことがあればわからないということ、笑顔で話をすれば誰でもなんでも教えてくれるので、異国の地でも頼れるところはたくさんあります。いろいろな出会いを経験できて、とにかく知識が増えて、視野が広がります。挑戦することを恐れなくてください。



オーストラリア サザンクロス大学

国際政治経済学部 国際政治経済学科3年
渡邊 眞緒子

1. 留学を終えた感想

留学を振り返って一番に思うことは、留学を経験できてよかったということです。語学は日本で勉強していた時よりもはるかに成長を感じました。ホストファミリーや友達、大学の先生とのコミュニケーションをとって積極的に英語を使う機会が増え、英語を使うことへの緊張感がなくなり、会話が楽しくなったことを肌で感じました。家族がオーストラリアを訪れてくれた時も、私が代わりに現地の人とコミュニケーションをとることができ、とてもうれしかったです。

加えて、オーストラリアでの出会いからも、留学をしてよかったと感じました。サザンクロス大学では、将来の目標をもって勉強している留学生や、さまざまな国に行った経験がある先生などが多く、会話をすることで多くの刺激をもらいました。留学したからこそ得られた経験に、心から感謝しています。

2. 留学を決めた理由

留学を決めたのは、海外で長い期間生活してみたい

と思っていたからです。留学前にも海外に行った経験はありましたが、旅行として短期間でしか滞在したことがありませんでした。海外に長期で滞在することは、旅行とは違った体験になると思っていたので、挑戦しようと決めました。

3. 留学先の学び・学習内容（どのようなプログラム、授業の内容、宿題、クラスメート、先生についてなど）

まず、English Academic Programというものを10週間受講しました。このプログラムでは、大学の授業で必要になるスキルを学習します。例えば、学問的な資料の探し方、読み方、そしてレポートの書き方などです。EAPでは、先生方が親身に教えてくださったので、まずこの時期で英語力がすごく伸びたと思います。大学の授業では、毎回の授業において予習と復習が重要なので、自主学習に重点を置いていました。課題も、たくさん資料を読んでレポートを書くことが多く、大変でしたが、そのおかげで英語力がとても鍛えられたと感じています。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

日本からヴァイオリンを持参して、地元のアマチュアオーケストラに参加しました。様々な国から来た学生と出会い、さらにオーストラリアで生まれた日本人の友達とも出会いました。英語を第一言語として話している姿がとても格好よく、刺激を受けました。社会人向けのオーケストラにも参加しましたが、年齢やスキル関係なく、団員全員が生き生きと楽しんで演奏していた姿が印象に残っています。



沢山支えていただいた語学コーススタッフの方々

5. 留学のおすすめポイント

おすすめは、オーストラリアの個性あふれるコーヒーショップです。自分の住んでいる地域のまわりで、雰囲気よさそうなお店を巡るのは、すごく楽しかったです。また、ゴールドコーストのビーチや公園には、無料で利用できるバーベキューコンロが設置されています。自然を感じ、波の音を聞きながらのバーベキューは最高でした！

6. 現地での生活について（宿泊先や研修先の雰囲気、一日のスケジュール、週末の過ごし方など）

週末は、友達と朝からカフェに行き、日中はビーチ周辺でゆっくり過ごしてから、ディナーを食べに行くことが多かったです。おいしいレストランが沢山あるので、気になる場所に行ってみるといいと思います。

7. 留学で成長した点

留学において、自分に自信をつけることができたと思います。留学前は、どうしても人目を気にして、不安なことを考えすぎてしまうことが多かったです。オーストラリアに行ってみると、現地の人々は、周りの目を気にしすぎず、自分の好きなように生活していました。一年間その環境にいたことで、帰国してから自分に自信がついたと実感することができました。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

私は日本のお菓子や食料を、少しでも持っていけばよかったと後悔しました。現地にもアジアンショップがあるので、そこで買おうと思っていたのですが、日本よりもはるかに値段が高く、手が出せませんでした。お気に入りのお菓子などは、少しでも持っていくといいと思います。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

留学をすることを決意したことに感謝したいです。当時は不安でいっぱいでしたが、留学で出会った多くの人に支えてもらい、無事やり切ることができたので、怖がらずにやりたいことに挑戦してほしいです。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

もし悩んでいて決断しきれないのであれば、信頼できる人に相談してみてください。そして、のちに後悔しない選択ができればいいと思います。この一年間で得た経験と出会いは、留学したからこそ得られたものであり、私にとってかけがえのないものになった、ということはお伝えしたいです！



韓国 成均館大学校

文学部 中国文学科3年
北川 絵万

1. 留学を終えた感想

私は今回この派遣留学プログラムに参加したくさんのことを学び、たくさんの人たちに出会うことができました。そして留学中に何に対しても情熱的に取り組み、後悔無く帰国することができ満足しています。私にとって今回の留学は、言語を学び、文化を体験し、多様な人たちと交流し、自分自身のやりたいことを好きにだけさせてもらうことのできた幸せなものでした。その中でも私は、たくさんの人と交流することができたということが最も思い出深いです。韓国や日本だけでなく、世界中に友達ができたといいことは私にとって嬉しく、そのような人脈を自身が作り上げたということに対して自信ができました。今回の留学で本当に貴重な経験を積むことができ、手助けをしてくださった国際交流センターの方々には感謝しています。

2. 留学を決めた理由

私は大学に入学する前から韓国に留学しようと思っていたので、留学制度が充実している学校に入りたいと思っていました。私自身、大学に入学する前から独学で韓国語を勉強しており、語学力に自信がありました。大学の韓国語の授業でも教授からお褒めの言葉をいただくこともあり、さらに自信ができました。そして自身の語学力を生かし海外で人脈を広げたり、韓国での生活をしてみたいと思い、派遣留学プログラムに応募しようと決めました。

3. 留学先の学び・学習内容(どのようなプログラム、授業の内容、宿題、クラスメート、先生についてなど)

私は春学期は語学堂に通い、秋学期は正規授業を受講しました。

まず語学堂では4級と5級を修了しました。語学堂ではスピーキング・リーディング・ライティング・リスニングの領域を学ぶことができます。課題としては作文や、パワーポイントを用いた発表などがありました。語学堂に通っているときにできた友達は国籍も年齢も様々でしたが、本当に仲良くなれました。また先生方は優しく丁寧に教えてくださったので楽しく授業を受けることができました。

正規授業は課題自体は多くないものの、定期試験が難しかったです。教授の話すスピードも速く、専門的な言葉も多かったため、語学力の基盤が無いとさらに専門的

な知識を学ぶのは難しいと思いました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

韓国にはカフェが多く、勉強をするにも、友達と遊ぶにも欠かせない場所でした。カフェに行くのが好きな私にとっては、韓国はとても魅力的でした。

友達とカフェでドリンクやケーキを頼み、一緒に課題や試験勉強をしました。休みの日には、おしゃれな街に出掛けてたくさん写真を撮ったりしたことも思い出に残っています。

また、成均館大学校には交換留学生を手助けしてくれるサークルがあります。私はそのサークルが企画する活動に参加し、遊園地に行ったりハイキングを楽しみました。韓国語の話せない留学生もいましたが、コミュニケーションを取りたいという意図があればどうにか相手も応えてくれるので、言語の壁は大きく感じずに、新しい出会いを楽しめたと思います。

5. 留学のおすすめポイント

日本にいたときにはできなかった経験ができるということがおすすめポイントです。海外で生活すること自体が新鮮に感じられますし、日常生活の中で外国語を使う機会が増えるので、さらに語学力を磨いていこうという良い刺激にもなります。そして私は様々な文化圏から来た人たちと関わり合えたことが新しい経験だったので、このような経験ができるのもおすすめできるポイントです。

6. 現地での生活について(宿泊先や研修先の雰囲気、一日のスケジュール、週末の過ごし方など)

授業がある日は、授業の後に友達とご飯を食べ、カフェに行って課題や復習、予習などをして過ごしていました。昼食は学食で食べる事が多く、夕食は学校の近くのお店で食べていました。

授業が無い日や週末は、友達もしくは一人でもおしゃ



語学堂の友達と先生と

れな街や少し遠くまで出かけて遊んでいました。そして週末に留学生を手助けしてくれるサークルが主催する活動に参加することもありました。

7. 留学で成長した点

留学をするにあたって準備しなければならないことがたくさんありましたし、留学中にも煩わしい手続きや確認事項が数多く出てきます。ですが、そのような大変な過程をやり切ると成長を感じます。また様々な人との関わりを通して自身の考え方を柔軟にしていけることができたり、積極的な態度で人間関係を構築することができた自分に可能性を見出すことができました。そして語学力に関しても、よりローカルな表現や現地でよく使う表現なども身に付けることができました。語学力はもちろんのこと、考え方や物事に向き合う態度をレベルアップさせることができました。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

私は語学力をできる限り磨いておくことだと思います。語学力さえあれば困ったときに相談できますし、何より自信をつけておくと、留学生生活を何倍も楽しく送ることができます。実際現地で生活してみると絶対に知らなかった言葉が出てくるので、日本にいるうちに学べることを学んでおいて損はないと感じました。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

留学中は本当に楽しい生活が送れるので、心配しなくて大丈夫だと伝えたいです。友達が作れるかという心配や、授業についていけるかという心配が本当に無意味だったと思えるほど充実していました。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

私は後輩の皆さんに、たくさん学んでたくさん楽しんでほしいと思います。私は留学中に本当に充実した生活を送ることができました。海外での経験を恐れずに楽しもうとする意志を持ち、是非たくさん学んでたくさん楽しんでください。



韓国 成均館大学校

文学部 中国文学科3年
宮澤 瑞歩

1. 留学を終えた感想

あっという間の10ヶ月間でした。

実際に韓国で生活しながら韓国の人々のリアルな様子や文化、そして価値観や歴史など

様々なものを肌で感じる事が出来た留学期間だったと感じています。以前旅行で韓国を訪ねた際には気が付かなかった事、留学の期間に見方が変わったものなど、自身の考え方に影響を与える出来事を多く経験しました。韓国という国は日本と距離的にも、歴史的にも近い国である分、理解出来る部分や理解が難しい部分が共存していました。また今回の留学で強く感じるのは友人など周囲の人たちの大切さです。一度財布を紛失した際に、ルームメイトや学校の友人らに助けられ、普段と変わらない生活を送ることが出来ました。多くの人々に支えられ、有意義な時間を過ごしました。

2. 留学を決めた理由

元々、高校生の頃から「韓国に留学したい」という漠然とした思いがありました。韓国への一年間の派遣留学が可能だという二松学舎大学を選び、一年次、二年次と韓国語や韓国文化、南北問題について学びながら、さらに韓国留学をしたいと強く思うようになりました。日本での学びも私にたくさんの知識や情報を与えてくれますが、韓国に行き、韓国という国を自らの目で見て、感じることは自分を成長させる大きな要素になると考え、留学を決意しました。

3. 留学先の学び・学習内容(どのようなプログラム、授業の内容、宿題、クラスメート、先生についてなど)

前半の語学堂では基礎的な語学力を更に向上させるとともに、スピーキングの力を伸ばすことが出来ました。また先生方はより自然な表現といった実用的な内容を授業で扱って下さり、その後の学部授業でも非常に役立ちました。語学堂で出会う友人は、海外から来ている同じような境遇の人ばかりなので、積極的に声を掛け合いつつに仲良くなる事が出来ました。後半から始まった学



韓国民族村にて、友人と

部授業は日本の授業と似た部分もあります。しかし、試験の形式や課題など異なる部分も多くあるため、学期初めは慣れない事がありました。周囲の友人へ相談しながら解決することが出来ました。教授とはメールまたは大学のライブキャンパスから連絡を取ることが出来るので、授業で出た疑問や質問はすぐに解決することが出来ます。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

成均館大学校はソウルの中心部に位置し、立地や交通の便が良いです。学校の周辺には大学路という場所があり、食堂やカフェ、居酒屋、出店など韓国ならではの店が立ち並び、毎日賑わっています。学校終わりに友人たちと出かけることが出来ますし、スタディカフェで勉強したり、プリントショップなど授業で使用する資料を準備したりすることも可能です。学校の中には食堂が複数あり、カフェやコンビニ、記念品ショップ、美容室など多くの施設が含まれており非常に便利です。また留学生向けのイベントが学期ごとに企画されているので韓国はもちろん、その他の国々から集まった人たちと交流することが出来、知り合いを増やすきっかけになります。この留学で出会った友人たちの中でも、語学堂時代に会った友人たちとは特に親しくなりました。二か月の間同じ授業を聞きながら昼食を一緒に取ったり、休み時間に普段の悩みを相談しあい助け合うことが多くなり、自然と距離が近づいた気がします。私は元来内向的な性格なのですが、初めて自分から友達に声をかけ、一緒にアイドルのイベントに行ったのが大きな思い出の一つです。

5. 留学のおすすめポイント

今よりもさらに韓国語の力を伸ばしたいと考えている人におすすめです。現地で直接聞く韓国語は教科書で習うものよりもっと現実的で、よりリアルな言葉遣いや表現を学ぶには最も分かりやすい近道だと考えます。特に大学では授業では形式的な韓国語、友人らとの会話では若者言葉、新造語などに触れることが出来ますから、韓国語の新たな一面を知るのに適した環境だと思えます。自然な韓国語に触れることで韓国語のポキャブラリーを広げると同時に、自身の成長に繋がる機会になると思えます。

6. 現地での生活について（宿泊先や研修先の雰囲気、一日のスケジュール、週末の過ごし方など）

留学期間中は成均館大学校の寮に滞在していました。寮は基本的に同じ国出身の人と同室にし、言語の違いによる問題などが起きにくいよう工夫されているようです。ただ性格の違いなどによる衝突が起こる場合がある

ので、最初にルームメイトときまりを作ることをお勧めします。洗濯室や宅配室など基本的なものはもちろん、勉強室やジムなども完備されているので便利です。

春学期、語学堂に通っていた時は午前9時に授業開始、11時半から昼休憩、13時半から午後の授業開始、15時に授業終了というスケジュールでした。15時には授業が終わるので午後は自由に動ける時間が多いです。秋学期からは学部の授業になったので、取る授業によってスケジュールはかなり変わると思います。

週末は時間を十分に活用し旅行をしたり、テーマパークに行くなど遠出をすることが多かったです。試験期間は、カフェや学校の自習スペースを利用して勉強をしました。

7. 留学で成長した点

自ら進んで行動する力が身に付きました。授業中、疑問に思った部分があったらその場で質問をしたり、教授から質問を投げかけられたときに積極的に発言したりするようになりました。もともと内気な性格ですが、「せっかく留学に来ているのだからこの機会を逃すのはもったいない」という意識をするようになり、学校が準備しているプログラムに申請したり、友人を誘い出かけるなど積極的に動くように心がけました。周りからのアクションを待っていても何も起こらないので、自ら進んで行動することが大切だと学んだことにより自分の積極性が伸びたと感じます。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

現地の情報を早めに入手しておくことが大切になります。先輩に連絡を取って確認し、自分で準備する必要があるもの、ないものを分かりやすくまとめておくと良いと思います。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

行く前は不安な事ばかりで、行くか辞めるか本当に沢山悩みました。でもこの留学は自分がやりたいことを、改めて再確認しながら自分を成長させる大切な時間になります。怖がらずに楽しむ気持ちを持って飛び込んでみて下さい。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

韓国語の実力を伸ばしたいと考えている人にはぜひ勧めたいと思います。韓国現地でしか味わえない韓国らしさや生の韓国語を聞き、話す経験は確実に韓国語を上達させるために役に立つと思います。留学に行くか悩んでいるようならこの大学生の期間に、さらに学校が提供してくれる制度がある今行くことを強く勧めます。

2023年 春期短期海外語学研修（英語・韓国語）報告



オーストラリア サザンクロス大学

国際政治経済学部 2年
葉袋 綾祐

・短期海外語学研修への参加を決めた理由

もともと海外に興味があり、高校生の時にアメリカにも一度行っていたが、大学生のうちにも行きたいと思い参加を決めました。

・研修先の雰囲気

キャンパスの雰囲気はとてもよく運が良ければ近くでコアラなどが見れる場所でした。

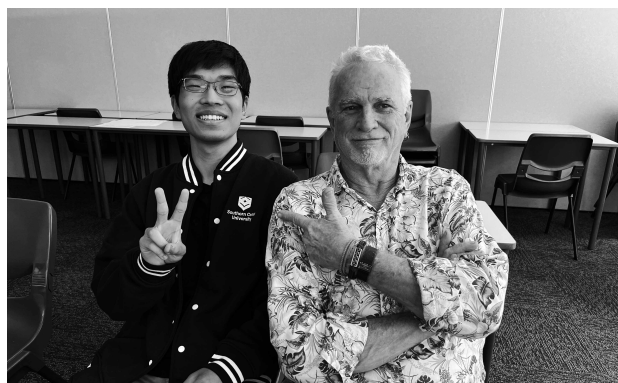
授業の一環として現地で日本語を勉強している高校生との交流もありお互いの国について話すこともありました。

・学習の内容

授業内容は文法や発音が多かったが、授業最終日にプレゼンテーションがあったのでその間に小さな発表を1人でやることなどがあった。課題の量もちょうど良く初日に出たホームワークではホームステイ先で質問をして完成させてくるものもあり、そこでホストファミリーと会話が盛り上がったりすることもあった。

・現地での生活の様子

思い出になったこととして、今回一緒に行った人たちと海に行った時このメンバーでこれだよ良かったと思えたこと、楽しかったことはホームステイ先の子どもたちが学校に来てほしいとお願いされたので、現地の小学校で日本の話をした時はとても楽しかったです。



楽しい授業をしてくれた先生と

・宿泊先

ホームステイ先の環境はとてもよく、週末はよくいろんなところに連れて行ってもらいました。子ども達はいつも元気でよく話してくれたのでとても過ごしやすく、楽しい日々を過ごすことができました。

・今回の研修で得たものや最も成長した点

最初にやったライティングのテストでは、最初の1ページ分ほどしか書けなかったが最終週にやった際には最初にやった時よりも正確な文法で最後のページまで書き上げることができた。



オーストラリア サザンクロス大学

国際政治経済学部 2年
美川 琴音

・短期海外語学研修への参加を決めた理由

小さい頃から海外の文化に触れ、外国人とコミュニケーションをとりたいという夢があり、英語を話せるきっかけになるのではないかと考えたため。

・研修先の雰囲気

自然に囲まれていたため、日本では体験できないようなアクティビティや勉強ができた。先生方はとても優しく、授業では積極的に生徒が発言できるような場をたくさん設けてくださった。また、授業外でも気さくにコミュニケーションをとってくれた。

・学習の内容

英語の発音は自分の口が覚えるまでという指導の下、練習をたくさん重ねられるような授業が多かった。また、机に向かうだけが勉強ではないと教えてくれた。詩を書いたり、オーストラリアの有名な動物をただ見るだけではなく、その動物の特性や種類等細かいところまでを英語で学んだり、動画を見てそこから自分で情報収集を行ったりした。課題はそこまで出なかったが、自主学習が大切だと感じた。学校で習った発音や単語を積極的にホストファミリーとの会話に役立てられたと思う。

・現地での生活の様子

たくさんの温かい人達に恵まれた。毎週水曜日に行わ

れるアクティビティ先で出会った人とコミュニケーションを取れたり、学校ですれ違う人とあいさつを交わしたり、すべて日本では感じることでできないような人の温かさに触れることができた。ホームシックになることなく三週間を大切に過ごすことができた。

・宿泊先

ホストファミリーはご家族4人ともとても優しくかった。完璧に正しい英語でなくても、相手に伝えようとする気持ちと表現力でたくさんコミュニケーションをとることが出来た。大学から車で3分ほどの場所に家があるため、大学にはとても通いやすかった。とても近くに家があるのに、毎日送り迎えをしてくれた。食事もおーストラリアならではのBBQや、マザーの手作り料理など、現地の食事の文化を非常に体験できた。犬も猫もいたがとても丁寧な飼育ならされていたため、すぐに仲良くなることが出来た。家族のみんなは私を楽しませようと週末の予定を念入りに考えてくれた。その気持ちがとても嬉しかった。

・今回の研修で得たものや最も成長した点

自分から分からないことや聞き取れなかったことは相手に聞いたり素直に分からないと答えることでそこからまた話も深まった。一番語学で勉強になったことはリンクングだ。ただ早く話しているのではなく単語と単語を繋げて端折っていた。私もホストファミリーに話すときに単語のつながりを意識して話すことが出来た。また、正しい発音の仕方ではないと相手にその単語を理解してもらえないこともとても勉強になった。

一番大事なことは何を話すかではなく、相手とどのようにコミュニケーションをとるかどうかではないかと感じた。ホストファミリーとその家族や友達と会う時に、話しかけられることを待つことが多かったが、それでは語学研修の意味がないと気づいてからは、積極的に挨拶したり、質問することが出来たと思う。間違えた言葉や



英語でアート学習を学びました

文法でも周りのネイティブスピーカーが私の間違いを正してくれる。こんな恵まれた環境にいる以上、たくさん間違えようと思った。自分を高める気持ちをはぐくむことが出来たと思う。

・留学する前に準備しておけばよかったこと／留学する前の自分に伝えたいこと

自分がしていた準備は間違っていなかったと自信をつけることが出来たと思う。また、一日一日を大切に過ごすことが出来たので、後悔することは何もない。



韓国 高麗大学校

文学部 1年
古沢 心音

・短期海外語学研修への参加を決めた理由

二松学舎大学に入学した1番の理由は、高麗大学に短期留学が可能だったからです。大学2年生の春休みに行くか悩んだのですが、何と無く過ぎてしまった大学1年生をそのまま終わりにしたく無かった為、今回の参加を決めました。

・研修先の雰囲気

キャンパスは誰もが憧れる立派な作りでした。広大な土地に、大きな講堂、歴史を感じる外観からは一転した近未来的な作りのキャンパスもありました。学部に合わせてコンセプトがされていてキャンパスツアーも楽しかったです。

先生は優しく綺麗な人が多かったです。休憩時間も気さくに話しかけてくれる先生ばかりで、自然と韓国語を話す機会が増えたように感じます。

また、トウミ（韓国人の大学生ガイド）の方とは夜景を見たり、食事を食べに行きました。トウミの方に連れて行ってもらった中華料理屋さんでジャージャー麺とタンスユクと言う料理を食べたのですが、美味し過ぎて韓国留学中に5回も食べました。日本に帰国してからも、新大久保まで行って食べました。

・学習の内容

私は2級クラスだったのですが、レベルに合わせた話し方をしてくれたお陰でオール韓国語の授業もしっかりと理解できました。授業内容としては、リーディングやスピーキングが多く、ライティングは少なかったように感じます。リスニングに関しては授業自体が韓国語なので鍛えられたと思います。私は圧倒的にライティングが



ホームステイ先のお姉さんと

不得意なので日本で勉強します。また、先生の言葉を聞き逃さないように毎時間集中していたので大学の授業より短いのに何倍も疲れました。

・現地での生活の様子

今回の短期留学でホームステイ先のオンニ（お姉さん）と出会えた事が私にとって1番の宝物です。私は一人っ子で親戚も居ないので、お姉さんという存在が純粋に嬉しくて本当に楽しかったです。夜食を作ってくれたり、一緒に映画やドラマを見たり、一緒に市場に行って屋台でご飯を食べたり、朝ごはんにお好み焼きを作ったり、恋バナをしたり、数え切れないくらいの経験をしました。ホストマザーやファザーでは無く、お姉さんだったから沢山の経験をさせて貰えたのかな？と思います。驚いた事は、とにかくカフェが多い事です。どこに行ってもカフェがあります。注文は基本端末で日本より進んでいるなと思いました。

正直日本に帰国した今、韓国に戻りたいと思うほど不自由なく生活していました。大変だった事を強いて挙げるなら、私のホームステイ先があった南城が7号線だったので朝の電車が日本の通勤ラッシュ以上に混んでいた事ぐらいです。留学2日目は電車に乗れなくて2本見送ったのですが、3日目からは日本人の「譲り合い精神」を捨ててガツガツと電車に乗る事ができました。

・宿泊先

ホームステイは最高でした。今回の思い出は一生忘れないと思います。お姉さんとお父さんが本当に優しくて、家の居心地も良くて、可能ならもう一度ホームステイしたいです。

私のホームステイ先が特殊だったのかもしれないのですが、朝食がセルフだったのが本当に良かったです。コーンフレーク、パン、パックご飯、韓国のり、冷蔵庫にあるキムチ等の豊富なおかず、ヨーグルト、フルー

ツ、納豆など…自由に食べて！と言う感じだったので毎朝朝ごはんが楽しかったです。

・今回の研修で得たものや最も成長した点

間違った韓国語を話すことよりも、韓国語が少しも上達しないまま帰国する方が怖いし恥ずかしい事だと気づきました。

最初は店員さんに話すのも怖くてタッチパネルのあるお店でしか注文できなかったのですが、家の近所にあったキンパ（韓国料理の一つ）屋さんとコンビニに通って店員さんとお話できるようになりました。日本人に対しても優しく、色んなサービスをしてくれたり本当に嬉しかったです！それからは行動範囲も広がり自分から人に話しかけられるようになったと思います。仮に間違った韓国語を話したとしても、もう2度と会うはずないし、話したもん勝ちだ！と思い当たって砕けろ精神で沢山のお店に行きました。そして沢山の会話を通して圧倒的にリスニングとスピーキングが鍛えられたと思います。ただ韓国が好きなので終わらないように、勉強しようと思えました。

・留学する前に準備しておけばよかったこと／留学する前の自分に伝えたいこと

ホームステイ不安だったと思うけど、本当に楽しいし最高の思い出に残るよ。まだ19歳だけど、人生で1番楽しかったから大丈夫だよ。



韓国 高麗大学校

文学部 1年
石井 こはる

・短期海外語学研修への参加を決めた理由

高校時代から進学先を決定する際に、韓国語圏への留学を考えていました。留学を目先の目標に大学へ進学したため、4年間の内に1度は行こうと考えていました。他の留学とは違い、ホームステイですが、3週間という短い期間でもしっかりと韓国語に触れる機会が学校外にもあるというところに魅力を感じ、留学参加を決めました。

・研修先の雰囲気

高麗大学はとても広く、設備も整った大学でした。向こうでの授業は韓国語のみということもあり初日は緊張していましたが、生徒のレベルにあったクラス分けがあるので、韓国語を1年しか勉強していない私でも理解出

来る単語を使って先生方が授業をして下さり、文法以外でもリスニングの力がとても身についたと思います。トウミ（韓国人の大学生ガイド）制度もあるため、年が近い韓国人の方と交流もあり、現地の人のオススメする韓国スポットなどに案内して下さりとても有意義な時間を過ごせました。

・学習の内容

授業で関わった先生は3人でしたが、どの先生も優しく、とても分かりやすく私たちに授業をして頂きました。分からないところがないかを聞いてくださったり、課題のチェックも一人一人丁寧に頂きました。授業後の宿題はそこまで多くなく、週に2回くらいでした。重要な文法、単語を復習できる簡単なものや、習った文法を使って自分の話を書く作文などが出ました。次々と新しい文法を習っていくため、復習を欠かさずに行いました。

・現地での生活の様子

初めての韓国でしたが、とても優しい方々に助けられました。行く前は日韓の関係からあまり期待をせずに行ったのですが、どこ出身でも関係なく助けてくださった韓国人の方々のおかげで、偏見を無くすことが出来ました。韓国では主に地下鉄を使って移動をしましたが、同じ線でも乗り場が違ったりと混乱することが多かったです。3週間の間に慣れたので最後の方は大丈夫でした。

・宿泊先

ホストマザーの方がとても優しく、気遣いを沢山してくださいました。今でもメッセージアプリで近況を伝えて下さったり、聞いてくださったりします。綺麗で広い部屋を貸して下さったので、居心地の良い環境で生活することが出来ました。洗濯やシャワーなど身の回りの事も困ることなく生活出来ました。



トウミ（韓国人の大学生ガイド）と駱山公園

・今回の研修で得たものや最も成長した点

日本での学びと現地での学びでは大きく異なることが分かりました。授業では韓国語しか使わないので、授業中は集中しないとすぐに何をやっているか何をすれば良いのかが分からなくなってしまいます。大学の授業時間よりも短いから楽だと思っていたのですが、日本の何倍も集中して授業に参加しなければいけないため、逆に短い時間でないと集中力が続かないのだと理解しました。

・留学する前に準備しておけばよかったこと／留学する前の自分に伝えたいこと

旅行本を準備していった方が良かったと思いました。あくまで学びが目的ですが、現地では全てが学びに繋がります。私はあまり韓国について詳しくなかったので、授業後に遊びに出かける時や、土日もいつも同じような所に出かけたのですが、今考えるともっと色々なところに行けば良かったと思います。現地でしか見れないものや、食べれないものを沢山経験しておけば良かったです。



韓国 高麗大学校

文学部 1年
山野 実咲

・短期海外語学研修への参加を決めた理由

高校時代に学校で異文化交流があったことがきっかけで異文化理解に興味を持っていましたので、ホームステイは現地のリアルな生活を体験できると思い参加を決めました。

・研修先の雰囲気

高麗大学校の建物はとても綺麗で立派でした。先生は本当に本当に優しく面白かったです。3週間でしたが、すごく良くしてもらっていたので別れが惜しかったです。

・学習の内容

分からないところがあればすぐに質問できる雰囲気でした。課題も1週間に2、3回出るくらいでした。

・現地での生活の様子

基本的に不自由だと思えることなく生活できました。

・宿泊先

ホストファミリーがすごく良くしてくださりました。人見知りな上、韓国語でのコミュニケーションだったの



とても優しい先生でした

で緊張していましたが、温かく出迎えてくれたおかげで緊張はほぐれました。夕飯は必要ないことを伝えていましたが、私が食べるのが好きだとバレてからは毎日夜

食と称して韓国料理を振舞ってくれました。3週間、ほぼ毎日夜食を食べました(笑) 漢江やオリンピック公園、蚕室、峨嵋山...いっしょに色々な場所で遊ばせてもらいました。幼稚園生がいたので、ほぼ毎日遊びました^^

・今回の研修で得たものや最も成長した点

語学力が圧倒的に伸びた気がします。語学習得だけでなく日本でもできる！と思っていましたがネイティブの韓国語を聞き、学び、現地でたくさん会話してみると驚くほど伸びました。ホストファミリーにも語彙が増えたね、と言われました。

・留学する前に準備しておけばよかったこと／留学する前の自分に伝えたいこと

文法よりも先にとにかく単語を覚えるべきだと何度も思いました。

国際交流の会実施報告

本学主催の総合的な国際交流行事である「国際交流の会」は、2019年以来の3年ぶりでの実施となりました。創縁祭の開催にあわせ、外国人留学生が様々なテーマにそって、それぞれの体験や意見を発表し、終了後、来場者や本学学生との交流会を兼ねた懇親会を実施しました。

外国人留学生にとっては、コロナ禍の日本での生活も異文化発見の機会となったようで、いつまでも参加者同士で意見を交換するなど盛り上がる様子が印象的でした。



国際交流の会の様子

2022年度 日本語・日本学特別プログラム修了の報告

2017年度から開始された「日本語・日本学特別プログラム」は、中止しておりましたが、2022年度に再開し、新規協定校となった聊城大学（中国）から4名の学生が参加しました。本邦政府の入国制限措置の影響で、秋学期だけの半年間の受け入れとなりました。短期間の留学となりましたが、留学生のみなさんは精力的に勉学や異文化交流活動に参加し、日本での留学生活を楽しまれました。修了式の終了後は、本学の学生と日本文化体験行事として、江戸切子グラスづくり体験にも参加しました。参加学生からの報告は別ページに掲載しています。次年度は、入国制限措置の緩和により、外国人留学生の来日が可能となり、本学においてもグローバルな環境が整備されていく計画にあります。



日本語・日本学特別プログラム修了式



忘れられない 日本留生活

中国・聊城大学 張 梓軒

皆さん、こんにちは。私は中国からの留学生です。いろいろな努力した後で、日本に留生活を送ることができました。日本に来てから、中国と違う生活習慣をたくさん発見しました。例えば、日本の車は左側走行ですが、中国は右側走行です。それと同時に、たくさんの日本の友達もできました。彼らは皆中国文化にとっても興味を持っています。私たちはよく文化や社会現象の話をします。一緒に遊びに行くこともあります。

留学していた半年間、いろいろなところに行きました。たとえば、浅草寺、神田明神、長野です。スキーをしてみましたし、たくさんのお寺や神社で熱心な祈りを捧げました。浅草寺のお線香や祈りに信仰の力を感じました。これらの場所で、私は日本社会と日本文化について多くの知識を知り、見識と視野を広げさせられました。心から感謝しています。

今、私の留生活は終わりました。もし再び日本に来ることができる機会があれば、私はきっともっと私の生活を大切にしたいと思います。自分の毎日を最も価値のあるものにしたいです。



お台場に行った



半年間の留学はまもなく 終了すること

中国・聊城大学 趙 連挙

「自信が持つようになったこと」半年の留学を終えた感想として、この言葉が一番似合うと思います。

振り返れば、留学前、大学4年から始まる留学に対し、たくさんの不安を抱えていました。コロナが流行されていること、別の国で病気があったらどうすればいいかということ、友達を離れ、親元を離れ、日本へ来るまえに、ずっと心配していました。

実際に留生活が始まると、留学前に抱えていた不安など、なかったかのように充実していました。クラスメートとはすぐに打ち解け、たくさんの人と仲良くなることができました。私は日本に来たばかりの時に、日本語が全然話せなくても、こちらに話す意欲さえあれば、ゆっくりでも、単語が間違ってもみなさんが聞いてくれます。話し言葉がうまくなくても、毎日クラスメートの友人と日本語で会話をしたことで、日本語での聞き取りはかなり成長しました。留学当初は、コンビニのスタッフの言っていることが全く聞き取れず、コンビニで買い物をした時に、心配する時期もありました。ですが、今の時に、スタッフが言っていること、日本語授業での発表、日本語のレポートを書くことにも嫌悪感を抱えなくなる成長しました。語学を身に付けたいなら、とにかくノンストップで話してください。友達が私の日本語の間違いを指摘してくれた時、私はとても楽しかったです。これが、語学力をつける一番近道だと思います。

二松学舎大学に留学に来て本当に良かったです。この半年間で勉強してきたものは、忘れないものとなりました。ありがとうございました！ニャー！



軽音楽サークルの部活で演奏

2022年度 交換留学生報告



忘れられない経験

韓国・成均館大学校 蔡 熙周

たった5ヶ月余りの短い時間でしたが、日本で過ごした留学生活は死ぬまで忘れられない大切な経験でした。日本に到着した時、私は自分がうまく適応できるかという緊張感と不安感を持っていました。しかし、学校側から空港まで出迎えに来てくれて寮まで車で送ってくれて不安感がなくなりました。また、気になる点があってメールで質問すれば早く返事を送ってくださるなど日本生活に適応できるように手伝ってくれました。また留学生バディをはじめ日本で会った日本人たちは知らないことがあれば親切に教えてくれたり、相手の言葉に積極的に共感してくれて留学生活をしている間日本人に対する良い印象を持つようになりました。

最初は交換学生の中で私一人だけが韓国人だったので心配していました。しかし、中国人の友達が私に話しかけてくれて、よく面倒を見てくれて、すぐ親しくなることができました。授業が終わったら一緒に中華料理、韓国料理を食べに行ったり、休みの日にはお台場、上野、浅草など地元の有名観光地を訪れました。浅草で行う西の市にも参加して、日本文化を楽しんだことも記憶に残っています。アニメで見た日本の祭りを直接体験することができてとても楽しかったです。また、12月31日には新年を迎えるために一緒に増上寺を訪れ、鐘の音を聞き、初詣をしました。そして、アニメが好きで友達と新

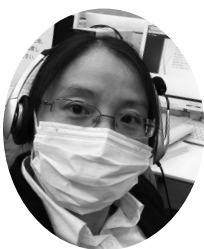
海誠監督の「すずめの戸締まり」という映画を見たのもとても面白かったです。韓国と違って日本の映画館はこんな感じなんだと感ずることができた経験でした。

留学生活の中で新しい経験は、学校専用の寮ではなくシェアハウスだったので、学生だけでなくさまざまな年代、国籍の人たちに出会えたということです。シェアハウスで過ごしなが、シェアハウスで主催するパーティーにも参加していろんな人に会うことができたし、社会人の日本人の友達に会って進路と日本の会社に対する話を聞くことができました。また、一緒に食べ物も作って食べたり、車でドライブしたり、一緒にカラオケに行ったりしました。それで、学校だけでなくシェアハウスの中でいろんな友達と付き合ってみたら自然に日本語会話の実力が成長できて良かったです。



ジャンプフェスタで

2022年度 外国人留学生（文学研究科博士後期課程）報告



ドキドキスタートした私の留学生活

文学研究科中国学専攻 陳 越

二松学舎大学での留学生活ももうすぐ幕を閉じようとしています。地下1階が入口であり、この三番町にある校舎において沢山の思い出を作りました。

1. 私にとっての1号館

碩学の教授陣の授業は主に1号館で受けました。また研究に必要な図書館や中文・国文の共同研究室、パソコンがいっぱい並んでいる演習室も1号館にあります。日本に来て、運動不足になった私は二松には運動場がなくビルしかないなあと嘆いたこともあったが、この1号館で過ごした時間が一番多かったです。勉強が一段落着き、部屋から出た瞬間、満面に夕日が映ってきたことには何度も何度も感動しました。また、最上階での息抜きも本当に気持ちよかったです。

2. 研究に不可欠なチャレンジ

二松の人文学会では年に二度口頭発表があります。そもそも大勢の前で話をするのが苦手な私にとって、口頭発表は実にやりたくない任務の一つでした。初めての口頭発表が終わり、演習室で号泣したことは今でも鮮明に覚えています。でも、そのおかげで、私の学術生涯もこの口頭発表から始まりました。

3. 思いがけないイベント

残念ながら、留學生活の四分の三がコロナ禍にあり、一時期普通に授業に出ることも贅沢な望みでした。幸いなことに、入学した一年目に学内で国際交流の行事があり、私にとってもう二度と経験できない「マグロの解体ショー」に参加し、マグロの頭に入刀することができました（骨があって、硬かったですよ^_^）。このような楽しいひと時を過ごすことができたのは二松を支えた人々のお陰だと心から感謝しています。

2019年4月、可能性あふれる新たな人生は二松でドキドキスタートしました。ここで四年間充実した留學生活を

送り、その経験は一生の財産になることは間違いないと思っています。



学内の交流会ではマグロの解体ショーを楽しみました

コロナウイルス感染症にともなう 入国制限および海外留學の状況

コロナウイルス感染症2019の危険情報については、世界の感染状況が総じて改善してきていること、G7はじめ各国も既に国・地域別のレベル指定を取り止めていること等を踏まえ、外務省は、2022年10月に全世界を一律レベル1（十分注意してください）に引き下げました。これを受け、本学では、2022年度11月以降に実施する海外派遣留學および短期海外語学研修を実施することとしました。2023年3月31日の段階では、すべての本学の海外協定校への留學は可能となりました。また、日本国への入国制限措置も大幅に緩和されていることから、同様に、すべての海外協定校からの受け入れが可能となりました。

国際交流センターからのお知らせ

コロナウイルスの感染状況の改善にともない、海外への渡航制限も緩和され、約2年間停滞していた留學および国際交流の活動は再開することができました。コロナ禍においても、国際交流センターでは本学初となるさまざまな新規取り組みを行ってまいりました。オンラインで海外大学の教育を受ける交換留學プログラムや短期海外語学研修、留學生と日本人學生が直接異文化交流活動を行う「留學生バディ制度」、TOEICなどの外国語試験受験料を助成する制度、英語試験IELTSの試験官による模擬試験など本学の學生のグローバルな活動をサポートする取り組みには多くの學生の参加がありました。また、ヴォティホアンさん（ベトナム）が似鳥財団の奨學生に選考されるなど、外国人留學生の活躍も多く見受けられました。

国際交流センターでは、留學プログラムの開発、語学学習のサポートをはじめ、今後もグローバルに活躍する學生のためにさまざまなサービスを提供していく計画にあります。

国際交流センターについて www.nishogakusha-u.ac.jp/international

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。 E-mail : icenter1@nishogakusha-u.ac.jp